

できる・できる・できる

申 校訓：「自主・友愛・飛躍」

令和5年12月11日

No. 49 (第177号)

長崎市立戸町中学校

文責 校長 大橋 功

<https://www.nagasaki-city.ed.jp/tomachi-j/>

「障害って何が違うの？」

6日(水)に、長崎県車椅子バスケットボール協会会長 **川崎 寿洋さん**と、車椅子バスケットボールチーム「長崎サンライズ」の現役選手で日本代表強化選手権大会 U-

23 の金メダリストである**溝口 良太 選手**をゲスト(外部講師)にお招きして人権集会を実施しました。

手始めに、人権学習実行委員の生徒代表が車椅子を使ってウォーミングアップを兼ねたシュート練習や1対1の実演を行いました。



そして、各学年学級の男女代表者による4対4の試合を行いました。見ると実演するとは大違いで、ドリブルもや

っと。リング下から必死にシュートを試みますが、なかなか届きません。それでもようやくシュートが決まった時には、全校生徒から歓声と拍手が沸き起こりました。さらに、終盤は生徒代表 対 先生代表の試合です。先生方も同様でボールがリングまで届きません。何とか先生チームが勝ちしはまものの、きっと、数日後には筋肉痛間違いなしです。

普通にプレーすることに慣れていない生徒たちが、車椅子を使ってのプレーは、当然、運動量をはじめ全てが普段とは違うので、車椅子バスケットを通じ心と体で感じ取りながら楽しさと同時に大変さも学ぶことができました。



前向き思考「障害を授かった」

試合終了後は、元長崎サンライズの選手でもある川崎さんから「考えるきっかけにしてほしい。」という願いのもと講話をお願いしました。全校生徒に自らの義足を見せながら、事故で片足を失ったけれど、ものは考えようで

「命があってラッキーだった!」、「生きている!」という前向きに思い、日々生活していること。スポーツを通じ僕らが障害者で無くなる瞬間があること。「普通ってなんだろう?」そのような基本的なことを考えることに繋がるということを様々な角度から、経験をもとにして、私たちに語り、問いかけてくださいました。いつの間にか、「自分の心の中にバリアをつくっていないか。」ということに気づくきっかけにもなりました。



「わたしのせいじゃない!」

人権集会の後半は、人権学習実行委員による「わたしのせいじゃない!」と題した電子紙芝居です。いじめとともに問題視される「傍観者」に焦点をあてた、決して他人事ではない、どこにでも起こりうる内容でした。

生徒たちによる生徒たちへの語りかけは、我々教師にも勝る時がしばしばあります。

上から目線ではなく、同じ中学生であることや小学校から苦楽を共にしてきた仲間だからこそ生まれてくる共感であったり、説得力であったり。

今年の「人権集会」も実り多き集会となりました。



スポーツを通じ交流を深める！

6日(水)に、南部地区中学校の特別支援学級ふれあい体験(ボーリング大会)が、江川町マリンスポーツセンターで実施され、本校からは6組の生徒たち7名が参加しました。



各学校混成チームで得点を競い合いました。ガーターにならないレーン設定でしたが、それでも生徒たちは苦戦をしながら、スペアやストライクが出るとみんなで大喜びでした。先月は「体育交歓会」もありましたので、顔なじみの生徒もいて、時間の経過とともにチームも打ち解け合い、各レーンから笑顔と歓声があふれ出ていました。(〇)／



携帯電話の利用状況について

(携帯電話の利用調査結果より)

先月、本校生徒の携帯電話利用状況について調査を実施しました。その中のいくつかを保護者のみなさまに情報提供いたします。

自分用の携帯電話を持っている。	84%
フィルタリング等を利用している。	39%
フィルタリング等を利用しているか不明。	49%
インターネットやメールを利用している。	95%
SNSを利用している。	92%
利用時間 No. 1	合計
・1～2時間 (No. 2は3時間以上)	58%
嫌な事や危ないことを経験した No. 1	26%
・チェーンメールを送られた。	

携帯電話等の所持率は、年々低年齢化し、小学校低学年で所持しているという情報も耳にします。

また、保護者のみなさまには11月7日に“tetoru”を通じ「スマホ18の約束」について資料提供しております。その資料もご活用いただきながら、携帯電話等の利用について、今一度、お子様と一緒に話すきっかけにしてください。間もなく、冬休みに入り、これまで以上に所持している携帯電話等を使用する時間が拡大します。それは、大切なお子様が、ネットトラブル等の被害者や加害者になる恐れが拡大するということでもあります。保護者のみなさん、お子様の現状(利用状況)を把握できていますか？

研究授業で全教職員学ぶ

5日(火)の6校時に、全教職員参加型の研究授業を2年1組で実施しました。実施教科は国語科で、教科担任は**大津安沙菜先生**です。当該学級以外の生徒たちは、5校時終了後、部活動中止で完全下校でした。



今回は、研究授業を通じ、発問の工夫、ICT機器(Chromebook含む)の効果的な活用、グループ協議の在り方、授業展開時のシンキングタイムの導入等を検証しました。

授業後、全体会では「話し合ったり、聞いたりして、考えを広げる態度の育成。」という教科目標に伴い、Chromebookの「録画機能」、「動画配信機能」、「掲示機能」を使う方法。さらには、話し合い活動(班活動)において、聞く力・話す力・思考力・判断力等を育成するための手段として、どのような場面が効果的であるかについて協議し、意見交換をしながら深めました。全教科に繋がる効果的な活用について、学び多き有意義な校内研修会となりました。



心の種

今回のテーマは「自分らしさを伝える」

3年生の面接練習が始まりました。各学級での練習の成果を面接官役の校長・教頭・学年主任が本番ながらに面接をします。緊張した時こそ“素の自分”が出るもので、ついつい目線等の癖が出ます。

しかし、大切なのは、「答える」ではなく「伝える」であり、自分の言葉で自己アピールすることで“自分らしさ”とか“個性”を伝えることに繋がります。

これは、3年生に限ったことではなく、全ての生徒たちに必要なことで、上記の研究授業にあるように、聞く力・話す力・思考力・判断力等にも関連します。

先週の練習で私から「最後の質問です。あなたの強みは？」に対して、生徒たちは、強みや長所を自分の言葉で明確に伝えることができました。さすがです。